

# 小児期からの総合的な健康づくりに関する研究

## 平成9年度研究報告書序文

主任研究者：村田光範

この研究班は平成8年度に引き続くもので、今年度から研究主題は健康がないが、研究班構成に変わりがあった。

平成8年度は①効果的な運動及び体力向上の方策に関する研究(分担研究者：村田光範)、②乳幼児期の栄養・食生活の在り方に関する研究(分担研究者：戸谷誠之)、③小児期からの成人病予防に関する研究(分担研究者：福渡 靖)、④健康的なライフスタイルの確立に関する研究(分担研究者：鏡森定信)、⑤コホート調査の解析に関する研究(分担研究者：箕輪眞澄)の5つの分担研究から構成されていたが、平成9年度は①効果的な運動及び体力向上の方策に関する研究(分担研究者：村田光範)、②小児期からの成人病予防に関する研究(分担研究者：福渡 靖)、③健康的なライフスタイルの確立に関する研究(分担研究者：鏡森定信)、④生活環境と子どもの骨発育に関する研究(分担研究者：清野佳紀)の4分担研究課題で構成されることになった。

以上の分担研究課題のうち、①効果的な運動及び体力向上の方策に関する研究は、平成7年度からの新しい研究課題であり、②小児期からの成人病予防に関する研究と③健康的なライフスタイルの確立に関する研究は平成5年度から始まった厚生省心身障害研究：「小児期からの健康的なライフスタイルの確立に関する研究」の分担研究を引き継ぐもので、これらの研究はその研究期間の一応の目安を9年間に置いた長期にわたるコホート研究を主眼にしたものである。④生活環境と子どもの骨発育に関する研究はこれも平成5年度からの引き続きの研究課題であり、現在の子どもの生活環境が運動不足や食生活といった生活環境の影響で骨のかつ行くに悪影響を与えていることが懸念されることから、小児期からの総合的な健康づくりに関する研究の中の分担研究課題として新しい観点からの研究の出発となった。

今日の子供の生活状況を見ると、食事、運動、休養に代表されるライフスタイルに大きな問題を持っている。とくに、運動不足に代表される日常的な身体活動の低下は深刻な問題である。村田班はこの問題について、幼児を中心に生活実態、運動量評価法、生活習慣病にかかわる危険因子を検討した。小児期の生活習慣に関わるコホート調査について福渡班は全国的な展開を持つ拠点を中心に主に疫学的検討を行い、肥満に関するガイドラインのさらなる検討を行った。一方鏡森班は1992年に3歳であった富山県下全員のこどもを追跡し、今年度は対象が小学校1年生になったので、それまでのライフスタイルと子どもの健康問題を検討した。清野班は食事や運動について具体的な介入したことの骨発育への影響を中心に検討した。これらについてはこの研究課題の今年度の要約の項と、各分担研究班報告を参照していただきたい。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

小児期からの総合的な健康づくりに関する研究  
平成9年度研究報告書序文